



高所からの救出訓練 春季消防演習 (5月23日)

主な内容

- 成人式に265人が出席…………… ②③
- 春の叙勲…………… ④
- シエナ・ウインド・オーケストラ
演奏会前売券好評発売中…………… ⑤
- 若宮住宅団地分譲中…………… ⑥
- 歯の健康・カメラスケッチ…………… ⑦
- 加茂の風土記…………… ⑧

加茂病院は加茂市の宝 加茂病院を盛り立てましょう



五月三日、文化会館で成人式が開催されました。今回の成人式には、平成元年四月二日から平成二年四月一日までに生まれた人たちで、加茂市内の中学校を卒業した人など三百五十人です。このうち、式典には二百六十五人が出席しました。

文化会館には、華やかな振袖や折り目の新しいスーツを着た新成人が、中学校卒業以来、久しぶりに会った友人との会話を楽しんでいました。

式典で小池清彦加茂市長は、易経の「天行は健なり、君子以て自強（じきょう）して息まず」と、論語の中から「仁を以て己が任と為す」の二つの言葉を贈り、成人となった会場の人たちに、さらなる活躍を期待しました。

また、「平和憲法を改正したら最後、アメリカはアメリカと同じ海外派兵を日本に要求してきます。その場合、もはや日本は拒否することはできません。その結果、日本人は徴兵制の下で、海外の戦場で命を落とし続けることとなります。日本は二発の原爆を落とされた、世界が認める平和国家です。皆さんは、平和



会場には265人の新成人が出席

憲法を断固として守って行ってください。」と述べました。

二十歳の誓いで新成人を代表して梅田奈都美さんが「今の自分のできることを常に考えながら行動し、社会に貢献していくこと、成人としての態度と行動を心がけていきます」と述べました。

このあと、ステージでは卒業中学校ごとに記念写真の撮影と、会場を産業センターに移して立食パーティーが行われました。



主催者あいさつする三浦伸一教育委員長



二十歳の誓いを述べる梅田奈都美さん



祝辞を述べる小池清彦市長



お祝いの言葉を述べる茂岡明与司市議会議長



式典終了後、出身中学校ごとに記念撮影する新成人の皆さん

春の叙勲

春の叙勲において、国や公共のために尽くした功績が認められ、加茂市からは二名の方が受章の名誉に輝きました。その喜びの声をうかがいました。

瑞宝単光章

(伝統工芸業務功労)



番場堅介さん
(上条・75歳)

の年にあたり、晴れの受章となりました。二百年の伝統技術を誇り、伝統的工芸品として全国シェアの七割を占める「加茂桐箆筒」。番場さんは、平成二年に伝統工芸士に認定されました。

住宅構造や生活様式の時代による変化で、桐たんすの需要が減る中でも、番場さんを指名した特注品の依頼が全国から時々舞い込むということでした。「これまで百点満点のものはないが、お客様からのクレームは一件もない」と胸を張ります。

「ただ家業の仕事を与えられて続けてきただけ。何回も壁にぶつかり悩んだり、乗り越えられれば喜んだりしてきたが、自分で納得のいく品質本位でいい物をつくってあげれば、だれかが認めてくれるはずとの信念で、この道に邁進してきた。これも多くの皆様のおかげと感謝しています」と静かに受章を喜びます。

番場さんは、中学校を卒業してから桐たんす作り一筋の道歩んで、今年職人として還暦の節目

自分も楽しくなる」と笑みがこぼれます。

「寝ても覚めても考えることは桐材とたんすのこと」と言い、体の続く限り桐たんす製造の現場に立ちたいという番場さんです。

瑞宝単光章

(消防功労)



中林武美さん
(大郷町二・68歳)

社会のため、著しく危険性の高い業務に精励した危険業務従事者に贈られる叙勲受章について「私のような者がもらえるとは思っておらず喜んでいいます。これも先輩、同僚の方々の指導と支援によるもの心から感謝しています」と、感想を語ります。

中林さんは、消防本部・署発足と同時に昭和三十八年十月に加茂市消防士を拝命してから三十八年余にわたって消防署に勤務しました。

消防組織法に基づく政令指定を受け、わずか十五名と消防車二台で発足した常備消防の創設期にあつて、他市に遅れをとった消防機関として試行錯誤を繰り返しながら、業務の充実強化、発展に努め、田上町との消防広域化まで一貫して予防係を務めてきました。

印象深いことは、昭和四十四年の加茂川水害を挙げ、「七谷地区に入り、家が流されたり、橋が落ちたりする惨状を目の当たりにしたことを忘れることができない」と言います。

昭和六十三年三月、田上町で発生した全焼十三棟を含む半焼・部分焼を合わせ十八棟に及んだ大火災を教訓に消防の広域化が急務となり、平成元年に加茂市・田上町消防衛生組合の設立に至り、初代の田上出張所長を務めました。その後も、警防課長として消防力の強化と組織の充実を図ることに寄与しました。

退職してからウォーキング教室に参加したことがきっかけで加茂ウォーキングの会を立ち上げ「月二回の活動と年一回の泊まりの活動が楽しい」と、楽しみながら健康づくりをしています。

シエナ・ウインド・オーケストラ演奏会

10月23日(土) 午後3時開演



1990年に結成されたプロフェッショナルのウインド・オーケストラ。現在、東京を本拠地に演奏活動をしており、定期演奏会のほか全国各地での音楽祭やイベントへの参加、また音楽鑑賞教室等の青少年育成事業等への出演などで活躍している。またオーケストラ編成による演奏のみならず、管楽器の特色を生かした多様なアンサンブルユニットによるコンサートや管楽器クリニック等の活動も積極的に展開しており、日本を代表するウインド・オーケストラとして、国内吹奏楽愛好家の先頭に立つフラッグシップオーケストラとして高い人気を誇っている。

加茂文化会館

全席指定

S席5,000円 A席4,000円

(学生 S席4,500円 A席3,500円)

※当日各500円増

未就学児の入場はご遠慮ください

プレイガイド

ミュージックショップ・アベ ☎52-1999 小池めがね ☎52-2321

市民サービスセンター ☎53-1180 加茂文化会館 ☎53-0842

主催：加茂市 後援：新潟県吹奏楽連盟 助成：(材)地域創造

お問い合わせ 加茂文化会館 ☎53-0842



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

若宮住宅地分譲中

1区画86坪～

111坪の広い区画



坪8.8～9.3万円の格安で14区画を分譲

緑豊かで閑静な住宅地

広い区画でゆとりある生活

加茂南小学校・若宮中学校・若宮公園・商店街へ至近

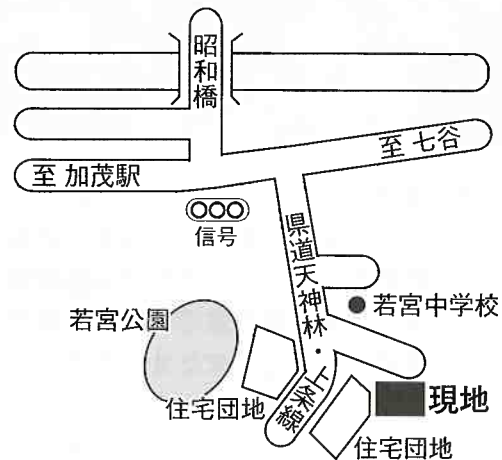
子どもからお年寄りまで暮らしの最適地

分譲区画



加茂南小学校へ徒歩15分・スクールバスあり、
若宮中学校へ徒歩4分
中央コミュニティセンターへ徒歩15分

周辺マップ



- ・所在地 加茂市若宮町2丁目地内
- ・用途 都市計画区域内用途地域無指定 (建ぺい率70%、容積率200%)
- ・施設 ガス、水道、下水道完備、舗装道路

市が分譲する宅地を購入するのに利用できる低利融資

加茂市保有宅地取得資金融資制度のご案内

融資条件 ①融資限度額 600万円 ②融資利率 年1.8%

③融資期間 10年以内(据え置き3カ月以内を含む) ④返済方法 毎月返済

⑤資金の用途 加茂市が保有する宅地の取得資金

お問い合わせ・申し込みは **加茂市建設課用地係** 電話 52-0080 内線 207

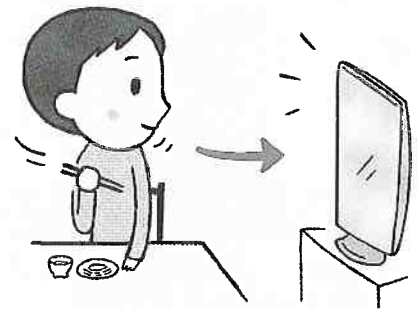
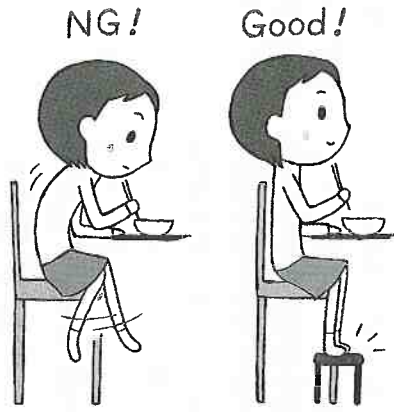


かむ力にも影響大！

食事中の姿勢

子どもの座高にぴったりの椅子とテーブルを使っていますか？

以前行われた調査では、ダイニングテーブルに座って食事をしていない子の五五%は「足が安定していない（大人用の椅子に座るなどして足がぶらぶらしている）」と答えています。実は足がぶらぶらしている状態では、咬合力（かむ力）も咬合面積も一五%ダウンしていることがわかっています。小さな



子にはぜひ、足置きのある子ども椅子に座ってもらいたいものです。食事中の姿勢もまっすぐになりま

す。また、テレビなどを見るために常に同じ方に横を向いていると、かみ合わせもずれてきてしまいます。

では、正座して食べればいいのか：というとそうでもありません。座卓で食べているこの場合も。半数近くが「足を崩して食べる」と答えていて、正しい姿勢とはほど遠い状態。足を崩して食事をする、体の軸がずれた状態がかむことになるので、あごの発育に悪影響が出るだけでなく、脊椎など、全身がゆがむ原因にもなるのです。

（加茂市歯科医師会）

カメラ スケッチ



葵橋と西宮橋の間に500匹のこいのぼりが元気よく泳いでいました。



大通り春まつり（5月3日）

駅前から本町までの大通りが歩行者天国となつていろいろなイベントを楽しみました。

山島・川西の畑で

ナメクジ・カタツムリが大発生(明治三十六年)

明治三十六年(一九〇三)五月、

山島と川西の信濃川堤外地にある畑地にナメクジとカタツムリが大発生

して、ようやく伸び始めた作物の若芽を食い尽くして大被害を与えていると、当時の「新潟新聞」が報じた。

被害面積は両集落合わせて約六十ヘクタールにもなったという。

この地は、明治時代から野菜の生産が盛んな所である。なかでも、川西の上杉桂太が桐油を塗った和紙を用いた温床でキュウリの促成栽培に成功したのが明治八年(一八七五)頃のこと、雪国での促成栽培の事例として全国で紹介された(『加茂市史資料編3』)

加茂の風土記

例年、ナメクジやカタツムリは六月ごろから発生して八月ころに最も多いといわれているが、この年は五月に雨が多く大発生につながった。七月や八月なら作物も大きくなって被害も少ないが、まだ幼

い作物の葉が食べられると、その後の生育が著しく遅れ、収穫に大きく影響する。

被害は、麦類・豆類や瓜類からサトイモやゴボウまで広がっており、被害のないのはバレイシヨ(馬鈴薯)のみだったという。

「一坪に百疋ないし百五十疋位生息し」「大豆発芽の際の如きは一本三疋四疋づ、付着して食するものあり」と発生の状況と被害の様子を記事は書いている。「日中は午前九時より午後四時ころまで地中一寸内外のところに潜伏し、夕刻より翌朝まで出で食害し、曇天には最も多く出で、雨天これに次ぎ」と観察は細か



明治36年5月23日付の新潟新聞は現地の状況を伝えている

い。

このころナメクジの被害はめずらしかつたのか、防除については、新潟県の農事試験場で防除法の試験中であるとして、次の三方法が紹介されている。●作物の周囲に石油・石炭・木炭を散布したり、塩水やタバコをナメクジやカタツムリの体に塗る薬剤散布法、●人の手で捕らえて殺す捕殺法、●大根などを畑に置き殺す食物誘殺法

これらの防除法は、その効果や作業効率や経済性について、いずれも一長一短があり、優劣は現地での実地結果によるとされた。県では農事試験場の星野技師を現地に派遣して、ナメクジとカタツムリの防除指導にあたらせた。その結果、大発生からほぼ一週間後に被害は終息に向った。この間、県が試みた防除法のうち効果があつたものとして新聞は次のように報じた。「而して駆除法中、尤も有効と認むるものは石灰を作物の周囲に散布するもの及び鱗に蕨・干菜・大根等を混じて煮たるものを以つて殺すの二法にありといふ」。

天然の物でナメクジやカタツムリを殺す方法として現在にも参考になるのではないだろうか。

(長谷川昭一)

あまがとつ

社会福祉費寄付金

▼全国松坂小唄日本一大会実行委員会から 四万九千二百八十七円

福祉事務所へ

▼有限会社家具のまるやま(三条市)から 車いす一台

訂正とおわび

広報かも四月号(No.66)九ページで加茂市表彰式受章者の功績を誤って掲載しました。正しくは次のとおり(下線部分)です。訂正してお詫びします。

社会福祉功労

故・田浦信樹さん 七谷コミュニティセンター長並びに公民館七谷分館主事として十二年にわたり勤務し、地域の住民福祉に寄与。

人口のうごき

5月1日現在	
世帯	10,135 (+2)
人口	30,806 (-53)
男	14,874 (-33)
女	15,932 (-20)
()内は前月比	
(4月異動分)	
出生	15 (男9女6)
死亡	37 (男17女20)
転出	90
転入	59